

# 南海トラフ巨大地震「その時」あなたは ①

南海トラフ沿いで発生するとされる巨大地震の被害想定が内閣府より発表されました。県内の死者は最悪 5,800 人。「最悪のシナリオ」にどう備えるのかを考えなければなりません。南海トラフ巨大地震が起こった場合、自分の命を守るためにはどうすればいいのでしょうか。以下の想定場面で、自分のまわりで起こっている危険を予想するとともに、状況に応じた適切な判断や行動ができるように考えてみましょう。

## 南あわじ市福良地区 編

### 〔想定場面〕

日時 20XX年12月××日(×) 21:00

場所 南あわじ市福良地区(海岸付近) 自宅(木造2階建て、築5年)

人数 4人(家族:父・母・弟・あなた)

南あわじ市  
福良地区



あなたの住んでいる地域は古からの住宅街で、近くに商店街があり、あなたの自宅は沿岸に位置している。その日の夜は気温が5~6度。外は冷たい風が吹き、木の小枝が大きく揺れていた。

近所に住む一人暮らしの祖母宅からあなたが自宅に帰ったとき、母は台所でお茶を入れる準備をするためにお湯を沸かしていた。弟は2階の自分の部屋で宿題をし、リビングでは父がテレビを見ていた。

あなたが玄関から家の中に入ろうとしていたとき、「地震が来る!」突然、リビングから父の叫び声が聞こえた。テレビの画面には、緊急地震速報が流れていた。

その時…

- ①突然、あなたは下駄箱の上に置いてある小さな鳥の置物が「カタカタ」と音を立てる小刻みな揺れを感じた。
- ②10秒後、あなたは立っていることができないような激しい揺れに襲われ、突然、家中の電気が全て消え真っ暗になった。
- ③激しい揺れは3分間ほど続いて収まった。



### 考えてみよう

- (1) 想定場面の①~②では、あなたは命を守るためにどのような行動をとりますか。また、そのような行動をとるのはどうしてですか。
- (2) 想定場面の③では、あなたはその後の危険を回避するために、どのような行動をとりますか。また、そのような行動をとるのはどうしてですか。
- (3) さらに、以下のような状況について考えてみましょう。
  - 近隣の様子はどのようになっていると考えられますか。
  - 避難している人たちの様子を想像してみましょう。
  - 10分後、あなたは何をしていますか。
  - 30分後、あなたは何をしていますか。

## 「その時」わたしは・・・

玄関で私が家に上がろうとしたとき、リビングから「地震が来る!」という父の声が聞こえました。それと同時にかすかな揺れを感じました。出口を確保するため、私が玄関のドアを慌てて開けようとしたとたんに揺れが激しくなり、私は立ってられずその場にしゃがみ込みました。台所で食器が落ちて割れる音がし、母の叫び声がありました。揺れが収まると、停電で真っ暗な中から父の大きな声がありました。

「みんな、大丈夫か!」

台所から母が、2階から弟が返事をしました。

「明かりをつけるまで動かないで。」

私はそう言うと、玄関に置いてある非常持ち出し袋から懐中電灯を取り出し、靴を履いたまま、家族の靴を持って家の中に入っていました。和室では仏壇が倒れ、台所では食器が散乱しています。お茶を入れようとしていた母は、ポットのお湯で手にやけどをしていました。すぐに非常持ち出し袋のペットボトルの水で手を冷やし、応急手当をしました。

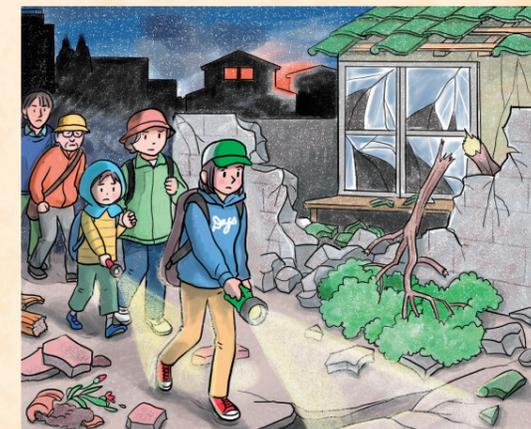
表に出ると、すぐに父は駐車場に止めてある車のラジオを聞きました。ラジオからは大津波警報と避難を呼びかける放送が流れていました。

「津波が来るぞ。すぐに避難するんだ。もし途中ではぐれても、訓練どおり避難所まで逃げろ。」

父は車に備えてあった懐中電灯を持って近所で一人暮らしをしている祖母の家へ向かい、私たちはこれまで何度か行われた避難訓練どおりに、高台にある避難所をめざしました。

避難途中に、倒壊している住宅がありました。「あの家の人は大丈夫かしら」、私たちはそう思いましたが、「避難札」が掲げられているのを見て安心し、避難を続けました。ブロック塀が倒れ、がれきが散乱して道をふさいでいました。街灯の明かりが消え、あたりは真っ暗です。道路はあちこちに地割れがおこり、思うように歩くことができません。いつもなら30分以内で避難所に着けるのに、時間がかかりそうで心配になりました。

振り返って見ると、暗闇の中、商店街のあたりから火の手が上がっていました。強い風にあおられて、火は次々と燃え移っているように見えます。住民たちはこれまでの避難訓練どおり、避難路を通って避難所へ向かって行きます。手には懐中電灯を持ち、避難用具の入った袋を背負っている人も見かけました。幼稚園児の手を引いている小学生や老人を背負って避難所へ急ぐ大人もいます。誰もが襲い来る津波に恐怖を抱きながらも、冷静に行動していました。



### 想定される被害状況

南あわじ市の南100kmの沖合の海底で発生した地震は、海面を山脈のように盛り上げ、津波となった巨大な壁は、南あわじ市をめざして近づいている。地震発生から約40分後、津波の第1波が南あわじ市を襲い、津波の高さは最大9mに達する。津波は湾の入り口からわずか200mほどしか離れていない商店街を一気にのみ込み、市街地のほとんどの家屋や建物が大破し、地区の大半が浸水する。津波は沿岸部に被害を及ぼすだけでなく、川を遡上し、浸水地域をどんどん広げていく。